

## 令和2年度第2回 蕨市立図書館協議会 会議録

- 開催日時 令和3年3月27日(土) 午前10時から正午まで
- 開催場所 蕨市立図書館 3階 会議室
- 議題 (1) 令和3年度事業計画及び予算について  
(2) 令和2年度蔵書点検の結果について  
(3) 第2次蕨市子ども読書活動推進計画進捗状況調査結果について  
(4) リサイクル本の利用者への提供等について  
(5) 「さよならフットボール」・「さよなら私のクラマー」特設コーナーについて  
(6) 新型コロナウイルス感染症予防に係る対応について  
(7) その他

公開非公開の別 非公開（新型コロナウイルス感染予防のため非公開とした）

出席者氏名 <出席委員>

町田 敏子委員、蓮沼 昌代委員、田中 京子委員、椿 智絵委員、  
岡本 和子委員、堀井 良枝委員、近江 睦代委員、荻原 由美子委員、  
富岳 貴久雄委員

<欠席委員>

土肥 仁美委員

<事務局：図書館職員>

佐藤館長、藤橋管理係長、小河原主事

### 会議経過

管理係長から開会し、館長あいさつ、会長あいさつ、自己紹介を行った。資料確認の後、議題に入る。

#### (1) 令和3年度事業計画及び予算について

管理係長が議題1を説明し、質疑応答に入る。

委員：事務局から需用費の消耗品費中にアルコール消毒の話があったが、この中に雑誌も含まれていたと思われる。内訳を記してもらいたい。また図書費も金額が大きいので、金額の大きい項目については何に使っているのかを次回からでよいので記載してほしい。

委員：何をしようとして予算を組んでいるのか。結果のみを報告する形式になっている。当初の狙いや目標を入れて、こういった活動をしたといった報告がほしい。できたとかできなかったとかだけではなく、できなかったことがあったら次に改善していこうとしないと発展した議論にはならない。結果だけ報告されても話づらい。

事務局：次回から予算の内訳等の詳細を記載してお示ししたい。

#### (2) 令和2年度蔵書点検の結果について

管理係長が議題2を説明し、質疑応答に入る。

委員：今後ICチップを導入する話を以前受けたため、詳しく事務局から説明願いたい。

事務局：駅前に移転するにあたり利用者はさらに増えることが予想される。ICチップを導入することで本の盗難のリスクを減らすことができ、分館の未点検数も減ると考えられる。ICチップの貼付作業については、移転が行われる前年度である令和6年度にすべての資料に貼付す

る予定になっている。

委員：分館の貸出等はどうなるのか。

事務局：本館では自動貸出機とBDS（ブックディテクションシステム）を導入する予定である。分館についても自動貸出機を導入できれば良いと考えている。

委員：以前から思っていたことだが、蕨の郷土資料については歴史民俗資料館に置いたらどうか。新図書館が完成する前に歴史民俗資料館に郷土資料を置くことが出来れば、その分新たに別の資料を排架することができ、歴史民俗資料館との連携もとれてよいと思う。

### (3) 第2次蕨市子ども読書活動推進計画進捗状況調査結果について

管理係長が議題3を説明し、質疑応答に入る。

委員：おはなし会をはじめとした様々な数字が並んでいるが、数字だけでは行った結果の良し悪しの判断ができない。例えばおはなし会は1回ごと5.5人しか参加しておらず少ないと感じる。こういった数字が改善されればよいと思うが、こういった数字を増やすために対象者に情報が伝わっているのか。伝え方の工夫があってもよいのでは。

事務局：おはなし会については参加者が減少したことに伴い令和元年度に廃止した。代替措置として「あかちゃんわらびっこのおはなしのへや」を令和2年度から開始する予定でいたが、新型コロナウイルス感染拡大により開催が見送られた。

委員：結果と合わせて今後の見通しや考察も記載してほしい。

委員：やったかやらなかったかについては余程のことがない限り実施されていると思う。もっとよくするための手がかりとして目標に対してどうだったのかをわかるようにすると議論しやすいと考える。

委員：4ページの⑤-1の団体貸出件数19,671件とあるが、冊の単位ではないのか。

事務局：貸出に紙芝居も含まれていることから件と標記した。

委員：7ページの小・中学校における取組についての調査の依頼は各学校に昨年の年末に届いた。この調査の対象期間が令和元年6月から令和2年の3月までとなっているが、令和2年の12月に届いた。対象期間を意識して回答した学校と、コロナによる影響が出てきて、その状況を答えた学校とで混ざってしまっており、正しく結果を反映していないところが多々見受けられるのが気になった。具体的には全校一斉読書については令和元年度は全小学校で実施していると思われる。今年度からは小学校の教育課程が変わり、授業日数が増えた。授業を増やさなければならなかったため、朝の読書時間を削らざるを得ない学校があった。そのため今年度はなしの学校が1校あった。①-3 ボランティアによる読み聞かせも元年度は全小学校実施していたと思うが、コロナの影響でなしと答えた学校もあったと思われる。アンケートの実施時期、対象時期については学校で誤解があったために掲載されている数字は適切ではないと思う。②-1 図書館で作った推薦図書リストの配布は6になっているが、令和元年に実物を受領している。しかし、令和2年度の担当は変わっている可能性があるため、昨年度図書館から提供されたことを知らず、回答してしまったと思う。③-1 学校図書館の資料整備など、必要に応じたボランティア活動の推進もコロナで実施しなかったと2校が回答したが令和元年度はすべてやっている。④-3 学校図書館教育支援員による学校図書館を活用した授業の支援についてはどのレベルで考えるかについて、授業そのものに支援員がいなくても授業に使う資料の準備をしていけばよいと考えるとこれも全校でしている。⑤-1 推薦図書リス

トの作成とあるが、下の課題は活用と書いてある。どうとらえるかで回答が変わってくる。学校独自の推薦図書リストを作成しているかどうかで理解している学校と、推薦図書リストは図書館が作っているためなしと答えた学校で、質問に対する捉え方の違いで回答が変わってくる。注釈のようなものをつけてもらえるとより正しい数値が出ると思った。

**事務局：**アンケートについては工夫が必要だったと思うが、わからない点があれば第2次蕨市子ども読書活動新進計画を確認いただければ文章として書いてあるため、そこを参照すればわかるようになっている。学校の先生方も忙しいと思うので、学校に係る箇所には付箋をつけるといった工夫も必要だった。推薦図書リストは学校独自に作成することを求めているため、⑤-1については次回調査より「推薦図書リストの活用」に修正する。

**委員：**毎年アンケートは作成されているのか。

**事務局：**第2次子ども読書活動推進計画の下では今回初めて行った。来年度も今年度のことを伺う予定だったが、コロナの影響で調査を依頼したところで未実施になる学校が多く出ると考えているため、来年度は見送ろうと思う。再来年度に来年度の状況を聞こうと考えている。

**委員：**年度内のほうが、人の入れ替わりがないためアンケートに答えやすいと思う。

**事務局：**今後は年度をまたがずに、年度内でのアンケート実施としたい。

**委員：**コロナが流行したからこれまでとは違う取り組みを行っている学校もあると思う。そういったことを吸い上げてもらいたい。各学校の取り組みを伺うことをアンケートに記入してもらうのはよいのではないか。

**委員：**学校だけではなく、幼稚園や保育園、あるいは図書館等、現在のアンケートの項目に固執しなくてもよいのではないか。コロナによる影響があろうとなかろうと子どもが読書できる環境をどう作るかという観点が大切であるから、工夫をしたことを共有できるようにするとよい。

**委員：**校長によって図書の在り方は変わってしまう。各学校での取り組みや工夫といった設問があると図書にあまり関心がなくても、必然的に図書について考える契機になり得る。

**委員：**良い取り組みを行っている学校については各学校に周知してもらいたい。

**事務局：**それでは、今年度は前回実施したアンケート項目ではなく、コロナ禍での工夫した取り組みについて情報を収集し、その内容を共有することとしたい。

**委員：**7ページの⑦-1 児童の読書活動推進、また、よりよい学校図書館運営のための研修の実施とあるが、毎年言っているが、図書館が核になってやってもらいたい。子ども読書に関わる人は図書ボランティアや図書支援員、読み聞かせのサークル、各学校に読書ボランティアとしてきている人がいる。そうした人たちは他ではどんな読み聞かせをやっているかはわからない点も多い。子どもの読書活動を推進していくために、図書館が核となってもらい、夏休み期間中の学校が休みの時に各学校の校長や学校の図書館司書の先生が出席できそうなら、図書委員会ではこんな話があったと情報の共有ができればすごくよい。図書支援員は蕨市の学校が10校に対して5人しかいない。そうすると1人2校行っていることになる。図書館支援員同士の接点もない。図書館主催の講座をぜひ開催してもらいたい。読み聞かせのプロに来てもらうのもよいかもしれないし、そういったものがあるとつながりが出てくると考える。

**事務局：**コロナの感染状況を鑑みながら、ご指摘の講座の開催の可否を判断したい。

#### (4) リサイクル本の利用者への提供等について

管理係長が議題 4 を説明し、質疑応答に入る。

**委員**：購入した冊数分を除籍にしなければならないということで、昨年度貸出冊数を増やしたらどうかと他の委員から提案があった。現状蔵は 5 冊だが、近隣の図書館は 10 冊貸出している。本館と分館とで蔵書構成がうまくいっていないためにこのようなことが起こりうるのではないか。先ほども話に出たが、歴史民俗資料館に蔵書の一部を移管することで歴史民俗資料館とネットワーク化できると思う。貸出冊数を増やすことで、毎年 9000 冊近くも除籍になくても済むのかと思う。除籍についてももう少し工夫してもらいたい。

**委員**：各年度で購入した冊数分を除籍にしなければ書架から本があふれてしまうということだが、全ての資料の貸出を停止して、全ての資料が返却される状況が生じなければ書架から本があふれることはないのではないか。安易に除籍にしないでもらいたい。実際に本を借りて全部戻ってくることはあるのか。

**事務局**：そういう時もある。

**委員**：貸出冊数を増やすことと図書館の除籍本を減らすこととは別に検討すべき問題である。一般に貸出をしている本は流通在庫の部分になる。これを増やすことについては事業が縮小してきたときに、書架に戻す場所がなくなり困ることにつながるためできるだけ避けたほうがよい。除籍する本はずっと図書館で動きのない本から優先的に出していくことが必要ではないか。

**委員**：一般書や児童書はそれぞれ購入した分だけ除籍するのか。

**事務局**：本を収蔵できる棚がそれぞれ異なるため、トータルで購入した分を除籍にしている。

**委員**：学校では充足率という考え方があり、児童に対する蔵書数が 100%にしなければならない制約がある。100%を切ると除籍することができない。公共図書館では人口比に対しての蔵書数についての基準はあるか。

**事務局**：公共図書館においてはそうした制約はない。

**委員**：除籍は最終手段と考えてほしい。図書館としての方針があって、その方針に従って除籍にしているというのがあるとよいが、なかなか見えない。

**事務局**：郷土資料や蔵以外で県内どこにも本がない場合は除籍せず残している。

**委員**：分館で本の入れ替えをしているのか。入れ替えたら周知してほしい。本のみならず、新刊コーナーの場所の変更があれば、その都度周知してもらいたい。

#### (5) 「さよならフットボール」・「さよなら私のクラマー」特設コーナーについて

管理係長が議題 5 を説明し、質疑応答に入る。

**委員**：これまで蔵市立図書館には学習漫画を除いて漫画本を一冊も置いていなかったためすごく驚いた。

**事務局**：郷土資料として収集するが、郷土資料として置いてしまうと館内閲覧のみとなり、貸出ができない。そのため複本を 3 冊用意し貸出することにした。漫画本については有名な作品ほど巻数が多くなってしまい、排架が難しい。漫画本もたくさんあることから、どれを買うか選ばなければならない、購入する数を絞ることになり、購入を見送っている状況である。

**委員**：作者が蔵の方か。

**事務局**：過去に西川口に住んでいたと聞いている。

**委員**：メールマガジンでトピック的な情報を月に 1 回とか定期的に情報を発信してほしい。新刊はいつも届いているメールに張り付けて新刊の検索ができるようにすれば、図書館のホーム

ページを閲覧しなくても図書館から届いた情報を見ることで、双方向の関係性ができくると思う。

#### (6) 新型コロナウイルス感染症予防に係る対応について

管理係長が議題 6 を説明した。質疑応答なし。

#### (7) その他

**委員**：説明があった再開発の資料はどこでもらえるのか。一般市民はあまりに知らないと思う。こういう情報があることをお知らせしたいが、このパンフレットはどこに行けばもらえるのか。

**事務局**：パンフレットの裏面に住所が記載されているため、そこに行けばもらえるのではないかと。

**委員**：図書館のディスプレイを担当しているが、要望があれば声をかけてもらいたい。

**委員**：今年は寄席が中止になった。コロナの影響で各種イベントが中止になることはわかっていた人もいると思うが、定例的なイベントについてはホームページ上だけではなく、館内掲示や市の広報紙で図書館からイベントの中止のお知らせをしてほしかった。児童書エリアで新設した書架については、倒れないように固定するためのビス止めしていないと思われる。対策を急いでお願いしたい。

**委員**：本日、何度か意見があげられたが、歴史民俗資料館、分館、さらに、学校図書館とのネットワーク化による連携をぜひ進めてもらいたい。また、以前から、図書館運営においては、図書館のめざす姿、ビジョン、目標の上に、計画があるべきと伝えてきた。その計画のもと、図書館のパフォーマンスを最大化するために、予算をどのように分配するかを検討する必要があると考えるが、現在、検討されている事業は、イベントだけになってしまっている。子ども読書活動推進計画も図書館の大きな事業であり、事業として計画に組み込むべきではないか。資料の廃棄についても、利用率をもっと重視してもよいのではないかと。現に、2階には、新聞の縮刷版、二次資料（辞典や辞書等）が多く配架されているが、どれくらい利用されているのだろうか。一方、図書館で実施されてきた改善、例えば、より見やすい書架の工夫や、ホームページの改定など、様々な工夫を行ってきたと認識しているが、それらの内容を図書館の実績として市民にお知らせできていないことは残念である。今日は事務局から事業の説明として写真を交えて説明していただいたので、そういった写真もホームページを通じて発信すべきではないだろうか。ホームページについては、図書館の沿革の記載はもっと充実させてもよいのではないかと。

#### 【事務連絡】

管理係長から、①本日の図書館協議会委員報酬について、②本日の協議会会議録の送付について、③新図書館について、④次回の協議会の日程についての4点を説明。

最後に会長代理から閉会あいさつ。